

様式（評価機構フォーマット版）

平成28年度
自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

平成29年 6月20日

ドレスメーカー学院

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準5 学生支援.....	44
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-16 就職等進路.....	45
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-17 中途退学への対応.....	46
基準2 学校運営.....	5	5-18 学生相談.....	47
2-2 運営方針.....	6	5-19 学生生活.....	49
2-3 事業計画.....	7	5-20 保護者との連携.....	51
2-4 運営組織.....	8	5-21 卒業生・社会人.....	52
2-5 人事・給与制度.....	9	基準6 教育環境.....	54
2-6 意思決定システム.....	10	6-22 施設・設備等.....	55
2-7 情報システム.....	11	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	56
基準3 教育活動.....	12	6-24 防災・安全管理.....	57
3-8 目標の設定.....	13	基準7 学生の募集と受入れ.....	58
3-9 教育方法・評価等.....	24	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	59
3-10 成績評価・単位認定等.....	34	7-26 入学選考.....	60
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	36	7-27 学納金.....	61
3-12 教員・教員組織.....	38	基準8 財務.....	62
基準4 学修成果.....	40	8-28 財務基盤.....	63
4-13 就職率.....	41	8-29 予算・収支計画.....	64
4-14 資格・免許の取得率.....	42	8-30 監査.....	65
4-15 卒業生の社会的評価.....	43	8-31 財務情報の公開.....	66

基準 9 法令等の遵守	67
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	68
9-33 個人情報保護.....	69
9-34 学校評価.....	70
9-35 教育情報の公開.....	72
基準 10 社会貢献・地域貢献	73
10-36 社会貢献・地域貢献.....	74
10-37 ボランティア活動.....	76

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成28年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>創業者・杉野芳子の建学の精神に基づき、下記の3点を本校の教育理念と定め、各科の定めたファッション業界のプロ育成を目標とする。</p> <p>①挑戦（チャレンジ）の精神 あらゆる物事に挑戦し、経験しようという気持を育てる。感化させるために、企業や業界のスペシャリストと連携をとり、時代の変化を技術や教育に反映させる。</p> <p>②創造する力 デザインのクリエイション教育だけでなく、コミュニケーション、プレゼンテーション能力などクリエイション力を支える自己表現の教育を取り入れる。</p> <p>③自立（自己実現）する能力 身につけた技術によって自己実現する精神的な力を育てる。また、昨年度達成した就職率100%を継続できるよう努力をする。</p>	<p>●職業実践専門課程の申請 職業実践専門課程の申請を行う。</p> <p>●各科の育成人材像と教育目標(到達点)の明確化 各科において、設定をしているが、職種が多岐に渡っているため、絞り込んで明確にすることとした。</p>	<p>●職業実践専門課程 アパレル技術科、高度アパレル専門科については、平成28年9月に申請をし、平成29年2月24日付で認定を受けた。</p> <p>●各科の育成人材像と到達点 教育課程編成委員会のアドバイスを受け、自己点検・評価委員会で会議を何度も重ね、各科の育成人材像と到達点を明確にした。 ※詳細は別紙参照</p>	<p>●職業実践専門課程 2学科においては、認定に至ったが、服飾造形科、ファッションビジネス科の申請が課題であるため、視野に入れながらカリキュラムの点検を行っている。平成28年度は、現行カリキュラムの中で実行可能な教育内容の改善を行う。</p> <p>●育成人材像と到達点 会議以外にも話し合いを重ね、カリキュラムとの連動性まで関連づけた。現在は、別紙となっているが、今後はホームページや学校案内に反映させていく。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>●教育理念・目的 建学の精神と教育理念は、下記の3点と定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①挑戦（チャレンジ）の精神 ②創造する力 ③自立（自己実現）する能力 <p>※詳細は「学校の教育理念・目標」（前頁）に記載</p> <p>●育成人材像 服飾造形の基本を理解した上で創造力を持ち、挑戦する心を常に忘れない自立した聡明な人材を目指し、具体的には、各科の定めたファッション業界のプロを育成することを目標とする。</p> <p>○各学科の育成人材像</p> <p>＜服飾造形科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売職（服作りの技術を学ぶことで、着心地や服の価値を伝えることのできる販売員）、縫製職、アパレルデザイン科への進学（デザイナー） <p>＜ファッションビジネス科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売職（ファッションと流通機構を理解し、IT技術と提案力のある販売員） <p>＜アパレル技術科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パタンナー <p>＜高度アパレル専門科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合職、企画職、デザイナー（クリエイション力とビジネス知識を兼ね備えた企業デザイナー） <p>＜アパレルデザイン科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイナー（造形知識に裏付けされた、豊かな感性と表現力のあるデザイナー） 	<p>本学園の創設者杉野芳子は、取組みの全てに探究心とチャレンジ精神があり、日本の服飾文化を切り開いたパイオニアスピリットに溢れていた。その根底には、服飾の知識や技術のみならず、時代を読む視点を学び、創造する力を養うことによって、物事の本質を見据える力を持つ人間形成を目標としている。</p> <p>本学院の指標である「いい服には法則がある」に沿って、いい服とは何かということ自身に問い続け、まず、基本とする「基礎力の充実」を図っている。基本となる技術と知識を修得することによって、クリエイションを生み出す力になると考えるからである。“技術のドレメ”といわれる教育が特徴である。</p> <p>●育成人材像 育成する人材像は、創立者杉野芳子という歴史に残るプロトタイプがある。1926年創立以来91年間、創立者の精神を受け継ぎながら、常に時代に対応した技術力と感性を兼ね備えた人材を育成している。</p> <p>各学科の育成人材像が明確である。</p> <p>業界の求める人材育成ができるよう、基礎教育の充実と共に、より企業に即したカリキュラムを毎年検討している。</p> <p>常に個性を尊重する育成を心がけ、一人ひとりの才能を伸ばす教育に取り組み、卒業後の就職、進路などに反映させている。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<p>●教育理念・目的 建学の精神と教育理念は、下記の3点と定めている。</p> <p>①挑戦（チャレンジ）の精神 ②創造する力 ③自立（自己実現）する能力 ※詳細は前頁に記載</p> <p>●育成人材像 服飾造形の基本を理解した上で創造力を持ち、挑戦する心を常に忘れない自立した聡明な人材を目指す。具体的には各学科の定めたファッション業界のプロを育成する。</p> <p>○各科の育成人材像 ＜服飾造形科＞ ・販売職、縫製職、アパレルデザイン科への進学（デザイナー） ＜ファッションビジネス科＞ ・販売職 ＜アパレル技術科＞ ・パタンナー ＜高度アパレル専門科＞ ・総合職、企画職、デザイナー ＜アパレルデザイン科＞ ・デザイナー</p>	<p>教育理念は、学校案内で告知している。入学前には杉野芳子自伝の感想文を提出してもらうなど、学生に啓蒙している。他にもDVD、年史があり、学外への公表もホームページ等で行っている。</p> <p>自己点検・評価委員会以外に、学科長会議や各科内での話し合いを繰り返し、各学科の育成人材像と教育目標を定めた。</p>	<p>普遍性のある教育理念であるため、時代性を取り入れながら取り組むことが重要である。そのためには、常に業界からのアドバイスを耳を傾け、スピーディに実行していくことを心がけている。</p> <p>自己点検・評価委員会で、育成人材像と教育目標（到達点）を定めて、達成できるカリキュラムになっているかというところまで、点検を行った。</p>	<p>ドレスメーカー学院学則 創業者・杉野芳子著書 年史、 杉野芳子 DVD Campus Guide & Diary 学校案内 ホームページ</p>

1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	今年度、各学科の育成人材像の絞り込みを行ったのは、教育課程編成委員会において業界人からのアドバイスを受けたことがきっかけとなり、適合していると考えている。	多岐にわたっていた育成人材像をファッション業界の職種として定めた。 業界のプロである非常勤講師や特別講義により業界のニーズに対応した教育で、適合を図っている。	大きく変化をしている業界の流れに適応するためには、常に情報収集を心がけ、業界からのアドバイスを速やかに実践する必要がある。	教育課程編成委員会議事録 自己点検・評価委員会議事録 授業計画（シラバス）
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	創立以来の教育理念は変わらぬ姿勢として継続しながら達成に向けて取り組んでいる。さらに「挑戦」という理念に基づき、時代の変化や職種に対応したカリキュラムを編成し、「いい服には法則がある」を指標とした特色のある教育活動を行っている。	「職業実践専門課程」申請に向けて、より実践的な教育を取り入れたカリキュラムを検討し、実践している。	「職業実践専門課程」の認定を受けていない学科においては、企業と連携した授業の充実を図り、増やす必要がある。	職業実践専門課程申請書 平成28年度産学連携予定表 自己点検・評価委員会議事録 主任会議議事録 カリキュラム会議議事録 授業計画（シラバス）
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	27年度より中長期計画をスタートしている。 社会が求めている人材育成を念頭に入れて、将来的な構想を各学科ごとに抱いている。	ファッションビジネス科は、IT教育の充実。アパレル技術科は、CADの探求。その他の学科は、海外生産を念頭に置いたメッセージ書の教育など将来的な構想を抱いている。	中長期計画にある学生数の確保を踏まえて検討していく必要がある。	中長期計画書 授業計画（シラバス） 自己点検・評価委員会議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ファッション業界から期待される人材育成を目標に定め、業界のニーズに沿ったカリキュラム編成に取り組んでいる。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営は、毎年策定している事業計画書に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、中長期計画の目標との関連性も含めて年度ごとに理事会・評議員会において審議され、決定している。</p> <p>運営方針・事業計画は、4月当初に開催される学園の全体会議（教員・職員）において周知徹底している。</p> <p>設置法人は、私立学校法及び寄付行為の規定に基づき理事会、評議員会等を開催し、議事録等を学園事務局で保管している。</p> <p>本学院の運営方針については、毎年、学生募集実行委員会、主任会議、カリキュラム会議、職員連絡会議で検討しながら取り組んでいる。</p> <p>今後もさらに委員会を充実させて強化を図る。</p> <p>特に学生募集においては、ここ数年苦しい状況が続いている。教員は、モチベーションを高く維持し、教育内容の向上、カリキュラムの改善等の努力を重ねた上で、教員と入試広報課が連動し、学生募集におけるオープンキャンパスの改善等による成果も見えている。</p> <p>学園全体の取り組みとして、平成16年から諸規程が整備され、事務処理体制の充実強化、情報開示等が進み、各部署の会議が頻繁に持たれ、管理運営の改革、改善が図られている。</p> <p>カリキュラムに関しては、毎年、カリキュラム会議、主任会議等において、教育目標・教育計画の検討を重ね、時代にあった授業展開ができるように努力している。</p> <p>大学全入・少子化の波の中、専門学校としての教育内容の質の高さを広く伝える努力が必要であることから、本年度は、アパレル技術科と高度アパレル専門科が「職業実践専門課程」の申請をし、認定された。今後も業界の動向に即した運営が出来るように充実を図る。</p>	<p>本学院の運営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実（学生募集・対外アピールのための活動） ・カリキュラムの充実（授業内容・計画・指導方針） ・就職の充実（就職率100%の維持） ・服飾専門学校としての独自性の確立 ・教員の資質向上 <p>学園全体の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸規程の整備 ・事務処理体制の充実強化 ・情報セキュリティの強化 ・情報の開示 <p>平成28年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの改善 ・ドレメサマーセミナーの実施 ・ドレメキッズスクールの開催 ・産学連携授業の実施

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに理事会・評議員会において審議され、決定していくことを方針としている。	毎年4月当初に開催される学園の全体会議（教員・職員）において周知徹底している。	「職業実践専門課程」を踏まえて、カリキュラムの充実、教員研修の強化等、教育の質の向上が必要と考える。	理事会・評議員会議事録 平成28年度事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の運営方針は、4月当初に開催される学園の全体会議（教員・職員）を通じ、教職員全体に周知されている。 教育理念に沿った教育をするため、カリキュラムの検討、体験入学・オープンキャンパス等の対応、各種検定試験対策等、教職員が協力して実行している。	毎年7月にドレメサマーセミナーを開催している。全国の系列校等からの参加者を対象として、本学院の院長、教員による作品発表が行われ、交流と研鑽の場となっている。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	事業計画は、運営方針を含めて、年度ごとに学園の理事会・評議員会において審議され、決定していくことを方針としている。	毎年 4 月当初に開催される学園の全体の会議（教員・職員）において周知徹底している		理事会・評議員会議事録 平成 28 年度事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の理事会、評議員会で事業計画、予算等について審議され、承認を得て決定される。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	学校法人は、私立学校法及び寄附行為規程に基づき理事会、評議員会を開催している。	学校法人は、私立学校法及び寄附行為規程に基づき適正に運営している。付議されるべき事項は、もれなく審議事項として付議され、議事録等を作成している。寄附行為変更手続きも法令に従っている。		理事会・評議員会議事録 学校法人杉野学園組織図
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	運営組織は、管理運営に関する諸規定によって定められ、杉野学園規程集を整備して運営している。	杉野学園規程集により各部署の役割分担・業務の範囲を明確にし、それぞれの職層、職務上の権限や責任を明確にしている。	杉野学園事務分掌規程に定められている各係りの所掌事務が一部現状と合わない状態になっており、改正を検討する必要がある。	杉野学園規程集

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人として、寄附行為に基づき、理事会、評議員会を適切に運営している。 杉野学園規程集により各部署の役割分担、業務を明確にし、職層、職務上の権限や責任を明確にしている。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	就業規則、給与規程、育児・介護休業に関する規程等を整備している。 教員の採用にあたっては、関係法令等に基づく資格要件を満たしたものを採用している。 事務職員の採用においては、新任ばかりではなく経験者の採用もしている。	教員では、学科ごとに目指す分野のスペシャリストや、専門性の高い教員、必要な知識・技術等を指導できる教員を採用している。 短期的には、要員計画、採用計画が行われているが、人材育成を目的とした中長期計画は立てていない。	教職員の採用については、年齢構成、分野別バランスに配慮する必要がある。	就業規則 給与規程 育児・介護休業に関する規程 文部科学省【教育関係法令】

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
採用については、理事長、院長、各部署の部課長により面接を行い、協議の上決定している。 就業規則、給与規程、育児・介護休業に関する規程等を整備している。 教員採用については、文部科学省の「教育関係法令」に基づき、資格要件を満たしたものを基準に採用している。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	管理運営規程、事務分掌規程、稟議規程等により各部署の役割分担・業務の範囲を明確にし、それぞれの職層、職務上の権限や責任を明確にしている。	理事会、評議員会による決定が必要な事案は、適切に理事会・評議員会を開催し決定している。 理事長が中心となる自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会、学生募集委員会、部課長会議があり、院長が中心となる教育課程編成委員会、主任会議、カリキュラム会議等がある。 それぞれの事案に対応した会議組織においてなされる意思決定もある。	現在の意思決定システムに特に課題はないが、過去にはシステムが不備で合った時期もあり、その当時の習性が残存している面もあるので、これを払拭する努力を続けることが必要である。	管理運営規程 事務分掌規程 稟議規程 杉野学園組織図 会議一覧表 理事会・評議員会議事録 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会議事録 学生募集委員会議事録 部課長会議事録 主任会議議事録 カリキュラム会議議事録 各委員会議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
重要な事項の決定については、理事会、評議員会で審議、決定されている。 その他の業務については、理事長の権限となっている。 理事長が中心となる自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会、学生募集委員会、部課長会議等があり、院長が中心となる教育課程編成委員会、主任会議、カリキュラム会議等がある。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	情報の共有化は、業務の効率化に不可欠な要素である。そのため情報システム導入、更新などに積極的に取り組み、システムの共通化を進め、情報の集積化や一元化を実現することで業務の効率化を図る方針である。	すべての教室、事務室にネットワークが整備され、学生情報管理、授業、事務業務などにて利用されている。学生情報に関しては、情報の一元化を実施、運用している。	システムのメンテナンス、セキュリティの整備管理の一層の徹底。	学校法人杉野学園情報通信ネットワーク規程 学校法人杉野学園情報通信ネットワーク規程細則 学校法人杉野学園情報セキュリティポリシー

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の情報システムは、「学校法人杉野学園情報通信ネットワーク規程」を定めている。 情報システム課が中心となり、メンテナンス、セキュリティの整備管理等を行っている。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院の教育理念の基本である「基礎力の充実」を念頭に置き、各学科の特徴を出したカリキュラム編成になっている。</p> <p>平成 18 年 3 月に「ドレスメーカー学院自己点検・評価委員会」を発足させて以来、毎年、常勤・非常勤の授業アンケートや教員間での授業見学等を実施し、改善策等を見出して教員一人ひとりの意識も向上している。</p> <p>教員の専門性を高めるために各種研修会への参加、研究発表への取り組み等は充実した状況にある。常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集する努力も必要と考えている。</p> <p>資格取得に対しては、早い時期から授業内や授業外でも取り組み、成果も上がっている。</p> <p>教員間の連携を図る上で、各種会議を定期的に行い、検討、改善を行なえる状況である。</p> <p>本年度より教育課程編成委員会が発足し、常に業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討できる体制が整っている。</p> <p>本年度、アパレル技術科と高度アパレル専門科の 2 科で「職業実践専門課程」の申請をし、認定された。</p> <p>次年度に向けて、服飾造形科とファッションビジネス科の 2 学科でも産学連携科目の内容の充実を図り、申請準備を行っている。</p>	<p>資格取得に対しては、本学院が検定試験会場にもなっており、全学的に資格取得に対して前向きな姿勢で取り組んでいる。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	峯岸 恵
--------	-------------	-------	------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	教育理念に基づいた特色ある学科構成であり、常に業界のニーズにあったカリキュラムの実施を目指した方針を定めている。	<p>理念、教育方針は学校案内等で明記している。</p> <p>服飾造形科教育目標</p> <p>時代に沿った感性を養いながら、ファッション業界に必要な服飾造形の知識や技術を基礎から応用までを総合的に学ぶ学科である。服飾造形に欠かせないクリエイション力と技術力をバランスよく身につけて、ファッション業界の現場で対応できる人材を育成する。販売職に対応できる授業を組込み職種対応の強化を図る。さらに、オートクチュールの創造性をあわせもったデザイナーを目指し、アパレルデザイン科へ進学することができる。</p> <p>ファッションサービス科教育目標</p> <p>ファッションビジネスの知識をトータルに備え、ファッション業界の流通機構を理解した上で実力を遺憾なく発揮できるファッションビジネスのスペシャリストを育成する。</p> <p>ファッションとビジネスの基礎</p>	学科ごとの教育目標が必ずしも明確でない点もあったため、平成28年度は、自己点検・評価委員会で検討を行い、明確化を図った。	<p>ドレスメーカー学院学校関係者評価委員会規程</p> <p>ドレスメーカー学院教育課程編成委員会規程</p> <p>ドレスメーカー学院教育研修規程</p> <p>自己点検・評価委員会議事録</p> <p>学校関係者評価委員会資料</p> <p>学校関係者評価委員会議事録</p> <p>教育課程編成委員会資料</p> <p>教育課程編成委員会議事録</p> <p>学校案内</p> <p>授業計画（シラバス）</p> <p>主任会議議事録</p> <p>カリキュラム会議議事録</p>

		<p>知識、説得力や判断力も兼ね備えたコミュニケーション能力と企画・プレゼンテーション力を身につけていく。</p> <p>具体的には、ファッションと流通機構を理解し、IT技術と提案力のある販売員を目指し、将来的に、ストアマネージャー、マーチャンダイザー、バイヤー、EC事業、プレスなどの職種にステップアップを目指す。</p> <p>アパレル技術科教育目標</p> <p>アパレル企業で求められる多種多様なデザインに対応できるパタンナーを育成することを目標とする。平面構成と立体構成の手作業でのパターンメイキングおよびCADによるパターンメイキングのどちらでもできる技術力を3年間でマスターし、即戦力になりうる人材育成を主な目標としている。その他、縫製CADパタンナー（オペレーター）、生産管職などの職種に就けるような教育を行っている。</p> <p>「職業実践専門課程」の認定にともない、より企業と連携した実践的な教育を行う。</p>		
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

		<p>高度アパレル専門科教育目標</p> <p>4年間を通して技術力、クリエイション力、マネジメント能力を、年次を追って段階的に学び、総合職や企画職、デザイナー（クリエイション力とビジネスセンスを兼ね備えた企業デザイナー）を目指す。また、インターンシップや産学連携を通して実際の現場を体感することでプロ意識を早い時期から養い、一貫してクリエイションとビジネスを結びつけた教育を行う。</p> <p>1・2年次には、一般教養科目を取得し、人間性を高めるとともに、社会において即戦力となるべくファッション業界の様々な分野で幅広く活躍できる人材育成を目標とする。</p> <p>卒業後は、「高度専門士」の称号が取得でき、大学院への進学が可能である。</p> <p>職業実践専門課程の認定を得られたことで、より企業と連携した実践的な教育を行う。</p>		
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

		<p>アパレルデザイン科教育目標 アパレル企業が求めるデザイナーとしての創造性と、時代の空気を捉えたデザイン力を身につけ、デザイン画やポートフォリオで表現することができるデザイナーを育成することを主な目標としている。また将来、自身のブランドを立ち上げることができるよう、オリジナリティーを追求する中で、斬新な発想力と広い視野を養う。</p>		
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

<p>3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか</p>	<p>学科ごとに修業年限に応じたカリキュラム構成をし、授業計画（シラバス）において学生に周知させる。</p>	<p>学科ごとに育成人材像を明確化するとともに 1 年次では基礎を身につけ、2 年次以降からは業界のニーズに対応した専門の分野を修得できるようにしている。</p> <p>服飾造形科 1 年次 パターン作成から縫製まで、実習を通して服づくりのすべてのプロセスを学び、服飾造形の基礎知識と技術を修得する。 さらに「アパレルCG I」や「スタイル画 I」「色彩学 I」「マーチャンダイジング」など多岐にわたるカリキュラムで様々な角度からファッション感覚と創造性を育てることを目標とする。</p> <p>2 年次 ファッション業界への就職を前提として、より実践的な既製服の生産システムなどを取り入れた、知識と技術を修得する。 素材別のパターンメイキングの技術、平面と立体構成の理論や縫製テクニックを学びながら現場で対応できる力を養う。数多くの作品制作を通して応用力と創造性を育み、オリジナリティーを追求することを目標とする。</p>	<p>教育到達レベルに向けて継続的にカリキュラム内容を検討して行く必要がある。</p> <p>服飾造形科 課題 販売職として就職する者に対し、販売の実務的な接客対応についての授業を平成 28 年度 2 年次から「服飾造形関係」の中に組み込んでいるが、産学連携の授業として考える必要がある。</p> <p>改善 「産学連携関係」の中に組み込み、単位化を図り、対応していく必要がある。</p>	<p>学校案内 授業計画（シラバス） 学校関係者評価委員会資料 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会資料 教育課程編成委員会議事録</p>
-------------------------------------------	--------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>ファッションサービス科 1年次 ファッションとビジネスの基礎知識やパソコンスキルの基礎をしっかりと身につけ、ファッション業界の職種を理解することを目標とする。</p> <p>「ロールプレイング」をはじめ、プロダクトに関する知識やクオリティの識別能力、スタイリングやコーディネート能力を養う。</p> <p>2年次 1年次で身につけた基礎力に加え、社会やファッション業界の動向を理解して発信できる企画力を身につけることを目標とする。</p> <p>「マーチャンダイジング」や「プレゼンテーション」など各科目で、パソコンを使つての作業を重ね、同時に説得力、判断力を培い、最終的にはブランド開発に挑戦する。</p>	<p>ファッションサービス科 課題 企画書でのプレゼンテーションを行うため、ハンガーイラストのレベルの低さや素材に関する知識の足りなさなどの課題もある。</p> <p>改善 平成 29 年度は、さらに、企画書の中で達成レベルの低かった箇所の授業を抜本的に見直しをする。</p>	
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>アパレル技術科</p> <p>1年次 服飾造形の基礎知識を理論と実習の両面から学ぶ。 パターンメイキングから縫製までの基礎技術を修得し、アパレル生産知識を深め、ファッション感覚を育てる事を目標とする。</p> <p>2年次 アパレル業界のパタンナーが行っているデザインに対しての寸法出し・シルエットの作り方・縫製仕様の考え方等を実践的に行う。パタンナーの作業の基礎を学び、パターンメイキングから工場生産までの基本的な流れを修得することを目標とする。</p> <p>3年次 レディースコース 1・2年次に学んだ基礎技術を応用し、あらゆるデザインに対応できる技術力をつけ、手作業とCADでのパターンメイキングが同じレベルで出来る技術力を身につける。 パターン・工程分析・縫製仕様・付属選定・縫製等の、アパレル業界のパタンナーが必要とする知識を修得し、即戦力になりうる人材を育成することを目標とする。</p>	<p>アパレル技術科</p> <p>課題 IT化に伴い、ビジネスコンピュータは必須となった昨今、学生が確実にパソコンスキルを身につけられるように考える必要がある。</p> <p>改善 29年度より、ビジネスコンピュータの授業を取り入れることとした。</p>	
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>メンズコース メンズ服のベーシックライン（基本となるアイテム）である、ワイシャツ・ベスト・パンツ・ジャケットを1年間でパターンメイキングから縫製までを行い、人体構造から採寸方法、名称、既製服とオーダーメイドとの違い、メンズとレディースとの服作りの違いを学ぶ。現在、メンズアパレルでの技術者が少なくなっており、メンズアパレル業界に技術者を送り出すことを目的としている。期間としては短いですが、メンズの基本的な技術および知識をマスターさせることを目標とする。</p> <p>高度アパレル専門科 1年次 服飾造形の基礎知識と実習を通して、服作りのプロセスや縫製技術を修得する。 また、「クリエイティブデザインⅠ」や「色彩学Ⅰ」「服装史」「アパレル素材論」など様々な角度からデザインの基礎を学びクリエイション力を身につける。さらに「マーチャンダイジング」では商品としての考え方を学び、「アパレルCGⅠ」、「プレゼンテーションⅠ」などの科目を</p>	<p>高度アパレル専門科 1年次 課題と解決 IT化に対応するためビジネスコンピュータ（ワード・エクセル）の授業を開講する。</p>	
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>通してビジネスとマネジメント能力を身につける。</p> <p>「特別講義Ⅰ」では、現場で活躍する様々なスペシャリストの講義を聴くことで、業界の最新の技術や知識を学ぶ。また、企画力や論理的な思考能力を養うために「心理学」、「文章表現」、「英会話」などの一般教養も身につける。</p> <p>2年次 服飾造形への学びをさらに深め、リアルクローズにおいてデザインのオリジナリティーが表現できることと、アパレル企業で実際に、行われている工業用パターン・既製服の物作りも学び、技術のさらなる向上を図る。</p> <p>クリエイション力に関しては、「ファッションテキスタイル」、「クリエイティブデザインⅡ」、「ドローイング」の授業を通してさらに創造性を高める。「アパレルCGⅡ」、「プレゼンテーションⅡ」ではビジネスに即した演習を行い、「特別講義Ⅱ」、「インターンシップ」や「産学連携」を通して、より実践的に学ぶ。</p>	<p>2年次 課題と解決 IT化に対応するためビジネスコンピュータ（パワーポイント）の授業を29年度より強化していく。ポートフォリオもDTPで作成できるように環境を整える。</p>	
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>3年次 将来の目標を明確にし、1.2年で学んだ服飾造形の知識やテクニックをさらに発展させる。クリエイション力に関しては、「ファブリックデザインⅠ」、「ダイイングデザインⅠ」の授業を通してオリジナルのテキスタイルを制作し、素材に対するクリエイション力も身に付ける。また、内外のコンテストにも積極的に挑戦し、感性や技術の向上を目指し、より自由な発想を形にするための表現方法を修得する。さらに「商品企画」の授業では企業と連携をとり実践的に学ぶ。</p> <p>4年次 3年間学んだ技術力、クリエイション力、ビジネスとマネジメント能力の集大成として実践的に活動する。産学連携の「実践商品企画」や「ブランドマネジメント」の授業を通し、プロ意識を持って商品企画から生産の流れを体得する。また、オリジナルデザインを表現できるよう、高度な技法を身につけることを到達点とする。</p>	<p>3年次 課題と解決 ポートフォリオをDTPで作成できるように環境を整える。</p> <p>4年次 課題と解決 産学連携によりブランドマネジメントの授業を取り入れ、より実践的なデザインビジネスを学ぶ</p>	
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>アパレルデザイン科</p> <p>「クリエイティブデザイン」では、様々なテーマから発想を繰り返し、クリエイション力を向上させる。</p> <p>服に対するデザインをあらゆる角度から追求するため、国内外の各種コンテストへ挑戦させる。</p> <p>「染色デザイン・織物デザイン」でテキスタイルに対する専門技術を学び、「服飾造形Ⅲ」では、高度な技術力を修得し、デザイナーとしての専門性を深める。</p> <p>さらに、「服飾造形」の中で実施している産学連携の授業で商品化するための流れやプレゼンテーション力を身につけ、インターンシップで専門分野に関連する現場を体験して、実践力を身につける。</p>	<p>アパレルデザイン科</p> <p>課題と解決</p> <p>進学課程あるアパレルデザイン科でのクリエイション力を向上させるため、今年度より1・2年次の「クリエイション」授業の見直しを図った。平成29年度はさらなる授業内容の充実を図る。</p>	
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>主任会議・カリキュラム会議・自己点検・評価委員会等の会議で検討した上で、学校関係者評価委員会の指摘を受け、その結果を踏まえてカリキュラム等の見直しを図っている。</p>	<p>本年度より教育課程編成委員会が発足し、検討体制が整った。これにより、アパレル技術科と高度アパレル専門科の2学科が「職業実践専門課程」の認定を受けた。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	峯岸 恵
--------	-------------	-------	------

3-9 教育方法・評価等 <服飾造形科>

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会等での検討事項を踏まえて、教育理念に基づき、服飾造形科の特色を生かした教育課程を編成する。 ファッション業界で幅広く活躍できる人材を育成することを目的とする。	服飾造形科は、服作りの基本技術から、クリエイション性、オリジナリティー性を追求したカリキュラムが組まれている。 平成28年度は、販売職へ向けた授業を組込み、希望職種に対応できる授業の強化を図っている	業界のシステムや流れを理解させ、服作りの考え方、技術力の強化を図る。業界のIT化に伴い、ビジネスコンピュータの内容の充実を図ると共に、パワーポイントでのプレゼンテーションが出来るようにデジタルの活用を強化する必要がある。	自己点検・評価委員会規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会議事録 教育目標 カリキュラム会議 時間割 授業計画（シラバス）
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会等での検討事項を踏まえて、業界のニーズに合うよう、外部者による意見を随時参考にした教育課程の編成をする。	現場教育を主とした特別講義を導入し、産学連携の強化等、業界と連動した授業を組み込んでいる。	業界等、外部者の意見を組織的に反映させるような機会を積極的に設ける。	自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	社会人として即戦力となるべく実際の職場体験を通し、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高めることを目標とする。	企業の協力を得て「企業説明会」を開催している。「特別講義」では、卒業生等に來ていただき、仕事についての講義を受け、職種への理解を深めている。1年次からキャリアガイダンスを実施している。 また、1,2年次を通して職場体験（インターンシップ）を行っている。	インターンシップの受け入れ企業の開拓。	授業計画（シラバス） 特別講義資料 インターンシップ覚書 就職ガイダンス一覧表

3-9-4 授業評価を実施しているか	授業評価アンケートを実施し、授業内容や授業環境について、常に改善し、教員の意識を向上させることを目標とする。	授業評価アンケート実施後、教員一人ひとり、院長と面談をし、改善点等をまとめている。平成 28 年度からは、授業評価アンケートを 2 回実施する。	授業評価アンケートでの学生の声を確認し、改善を行い、より良い教育をしていく必要がある。	授業評価アンケート報告書
--------------------	--------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------	--------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>科目ごとに授業計画（シラバス）を作成し、学生に周知している。 就職課が主体となり、1 年次からキャリア教育を実施している。 特別講義等でアパレル業界、職種等への理解を深めている。</p>	<p>授業評価アンケートを年間 2 回実施し、改善点等の再確認の必要がある。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等 <ファッションサービス科>

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会等での検討事項を踏まえて、教育理念に基づき、ファッションサービス科の特色を生かした教育課程を編成する。ファッションビジネスの分野で幅広く活躍する人材を育成することを目的とする。	ファッションサービス科は、IT時代に対応したカリキュラムを組み、どの科目でも、リサーチ力、分析・整理能力、表現力を身に付けるべく意識して指導している。	企画・提案・実行する編集能力のレベルアップを図る。パソコンスキルを早い段階から習得し、デジタル教育に力を入れ、スキルをレベルアップさせる。	自己点検・評価委員会規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会議事録 教育目標 カリキュラム会議 時間割 授業計画（シラバス） 授業報告書
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会等での検討事項を踏まえて、業界のニーズに合うよう、外部者による意見を随時参考にした教育課程の編成をする。	現場で活躍するプロフェッショナルな外部講師による科目が多く、また卒業生を中心にさまざまな職種の業界人を招いての特別講義を実施している。授業記録を通して外部講師との連携を密にしている。	ファッションサービス科は各科目の授業内容の連携が重要であるが、現場で働く外部講師が多いため、なかなか一堂に集まるのが難しい。担任がパイプ役となることはもちろんだが、話し合う機会を増やしていきたい。	自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録 授業報告書 特別講義報告書
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	社会人として即戦力となるべく実際の職場体験を通し、マナーやコミュニケーション能力を高めることを目標とする。	1年時からキャリアガイダンス、また1、2年を通して、ビジネススキル、インターンシップなどを実施している。特にインターンシップは卒業生からの呼びかけもあり、展示会などの単発的な機会にも積極的に参加させている。	インターンシップの在り方と協力してもらえる企業を増やす努力をする。学生全員が参加できるような態勢を検討していく。	シラバス 特別講義資料 インターンシップ覚書

3-9-4 授業評価を実施しているか	授業評価アンケートを実施し、授業内容や授業環境について常に改善することで教員一人ひとりの意識を向上させる。	授業評価アンケート実施後、教員一人ひとり、学院長と面談をし、改善点等をまとめている。	外部講師の授業が多いため、アンケートを実施する時期や方法を工夫する必要がある。	授業アンケート報告書
--------------------	-------------------------------------------------------	--------------------------------------------	-----------------------------------------	------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>流通の現場で欠かせない知識やスキルとコミュニケーション力の向上、パソコンスキルの向上、トレンドを捉えたコーディネート力と編集力の向上を教育目標の3本柱としてカリキュラムを組んでいる。ファッションビジネスの知識をトータルに備え、ファッション業界の流通機構を理解した上で、能力をいかに発揮できるファッションビジネスのスペシャリストを育成する。</p>	<p>具体的には、販売、ストアマネージャー、また将来的にマーチャンダイザー、バイヤー、スタイリスト、広報・宣伝で活躍する人材を目指す。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	木村 千晶
--------	-------------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等 <アパレル技術科>

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等での検討事項を踏まえて、教育理念に基づき、教育理念に基づき、アパレル技術科の特色を生かした教育課程を編成する。	アパレル技術科は3年課程で、アパレル業界のパタンナーとしての知識、技術力、物作りの考え方全般をカリキュラムに取り入れている。 業界のIT化に伴い、ビジネスコンピュータの授業の強化。	ビジネスコンピュータの授業を開講した。	自己点検・評価委員会規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会規程 教育課程編成委員会議事録 教育目標 カリキュラム会議 時間割 授業計画（シラバス）
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等での検討事項を踏まえて、業界のニーズに合うよう、外部者による意見を随時参考にした教育課程の編成をする。	企業のパタンナーによるCADパターンメイキング及び仕様書作成等の講義及び実習を行い、企業のIT化に対応できる様にしてしている。 教育課程編成委員会を年2回開催し、外部の意見を反映している。	産学連携授業を増やし、企業の物作りに対する考え方や作業方法を取り入れていくようにする。	自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会議事録
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	社会人として即戦力となるべく実際の職場体験を通し、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高めることを目標とする。	特別講義において1年次からキャリアガイダンスを実施している。 また、1・2・3年を通して、職場体験（インターンシップ）を行っている。	インターンシップ受け入れ企業を増やす努力をしていく必要がある。	シラバス 特別講義資料 インターンシップ覚書

3-9-4 授業評価を実施しているか	授業評価アンケートを実施し、授業内容や授業環境について常に改善し、教員の意識を向上させることを目標とする。	授業評価アンケート実施後、教員一人ひとり、院長と面談をし、改善点等をまとめている。	特になし	授業評価アンケート報告書
--------------------	-------------------------------------------------------	-------------------------------------------	------	--------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>アパレル技術科では、現在アパレル業界で行われている物作りの考え方や技術を授業の中に取り入れ、プロになる為の意識向上を目標としてカリキュラムを組んでいる。</p>	<p>CADによるパターンメイキングを行い、ハンドパターンメイキングとCADパターンメイキングの双方ができるようにしている。 企業のIT化に対応するため、仕様書等の書類関係等をワード、エクセルで作成できるようにしている。 インターンシップを率先して行っている。 「職業実践専門課程」の認定を受けたことで、より一層企業と密接に連携した授業内容を実施する。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等 <高度アパレル専門科>

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等での検討を踏まえて、教育理念に基づき、高度アパレル専門科の特色を生かした教育課程を編成する。	4年間を通して技術力、クリエイション力、マネジメント能力を、年次を追って段階的に学び、総合職や企画職、デザイナー等を目指す。インターンシップや産学連携を通して実際の現場を体感することでプロ意識を早い時期から養い、一貫してクリエイションとビジネスを結びつけた教育を行う。1・2年次には一般教養科目を取得し、人間性を高めるとともに、社会において即戦力となるべく、ファッション業界の様々な分野で幅広く活躍できる人材育成を目標とする。	パソコンを使用した仕様書の作成や、パワーポイントでのプレゼンテーションなど、課題にデジタルを最大限に活用させたい。そのためには、コンピュータ実習室での作業が行えるように時間割を組んで活用できるようにする。	自己点検・評価委員会規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会規程 教育課程編成委員会議事録 教育目標 カリキュラム表 時間割 授業計画(シラバス)
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等での検討を踏まえて、業界のニーズに合うよう、業界関係者や卒業生の就職先などの意見を随時参考にした教育課程の編成をする。	ファッション業界の様々な職種の方による特別講義や、商品企画など産学連携の授業を教育課程に取り入れている。また教育課程編成委員会を年2回開催し、外部の意見を反映させている。	卒業生の就職先などから意見を聞く。	自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会議事録 特別講義資料 授業計画(シラバス)

3-9-3 キャリア教育を実施しているか	実際の職場体験(インターンシップ)を通し、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力、職業についての意識を高めることを目標とする。また、社会人になるための自覚を持たせる。	特別講義において、1年次からキャリアガイダンスを実施している。また、2年および3年次には、必修として職場体験(インターンシップ)を行う事により職業に対する理解を深めている。	高度アパレル専門科は就職先の職種が多岐にわたるため、インターンシップ先も多くの職種の経験が出来るように引き続き開拓する必要がある。	特別講義資料 授業計画(シラバス) インターンシップ覚書
3-9-4 授業評価を実施しているか	授業評価アンケートをとり、授業内容や授業環境について常に改善し、教員の意識を向上させることを目標とする。	授業評価アンケート実施後、教員一人ひとり、院長と面談をし、改善点等をまとめている。	教員間の授業見学も含め、より良い授業内容、環境となるよう常に改善しながら進める必要がある。	授業評価アンケート報告書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
高度アパレル専門科の特色を生かし、4年課程の中で段階的に学べるよう、外部の意見を取り入れながらクリエイション力・マネジメント能力・技術力をバランス良く学び、ファッションの現場で幅広く活躍できる人材育成を目指す。	高度アパレル専門科は卒業後「高度専門士」の称号を得られ、国内外の大学院への進学が可能である。職業実践専門課程の認可を受けたことでより一層企業と密接に連携した授業内容を実行する。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	渡邊 千佳子
--------	-------------	-------	--------

3-9 教育方法・評価等 <アパレルデザイン科>

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会等での検討を踏まえて、教育目標に基づき、デザイナーを育成することを主な目標とする。	企業が求める時代を捉えた創造性や商品にするための技術およびオリジナルブランドを将来立ち上げるための斬新な発想に欠かせない広い視野を養う授業展開が行われている。また、企業で必要不可欠なパソコンでの資料作成を踏まえ、課題のデジタル化にも取り組んでいる。	アパレルデザイン科は、進学課程であるため、進学前の1・2年次でクリエイション教育が必要であると考え、2年次での授業内容の充実と、新たに1年次においてもクリエイション教育を実施した。平成29年度はさらなる授業内容の充実を図る。	自己点検・評価委員会規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会議事録 教育目標、概要プリント 授業計画(シラバス) カリキュラム表 時間割
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	自己点検・評価委員会、学校関係者評価委員会等での検討を踏まえて、業界で必要とされている実践教育を行うにあたり、業界人や卒業生の意見を取り入れ、教育課程の編成をすることを目標とする。	業界人や卒業生に特別講義を依頼することで、業界の現状を把握し、授業の内容についての意見をもらっている。	業界や外部者の意見を組織的に反映できるよう定期的な講師会を実施する。	自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録 特別講義報告
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	将来あるべき自分の姿を想像させ、プロ意識を向上させるとともに、未来を現実へと結びつけられる実力を身に付けることを目標とする。	産学連携授業において、商品立案からサンプル作成までを行い、最終的にプレゼンテーションをし、企業からの評価をもらっている。 プレゼンテーション資料はパソコンで作成し、企業とのやり取りのデジタル化を図っている。 必要に応じて職場体験(インターンシップ)を行っている。	産学関連授業を単位化し、評価をする。	産学連携授業計画 インターンシップ考課表

3-9-4 授業評価を実施しているか	授業評価アンケートを実施し、授業内容や授業環境について常に改善し、教員の意識を向上させることを目標とする。	授業評価アンケート実施後、教員一人ひとり、院長と面談をすることで授業の改善に努めている。	アパレルデザイン科の講師会を実施し、意見交換をすることで授業内容の充実に努める。	授業評価アンケート
--------------------	-------------------------------------------------------	----------------------------------------------	------------------------------------------	-----------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラム会議において、前年度打ち立てた教育目的・目標についての達成や課題を点検し、業界のニーズの変化や外部の意見を取り入れ、授業内容の見直しも同時に行い改善に努めている。	産学連携授業を行うことで、自分の意見や意思を伝えるためのプレゼンテーション能力を高めることを指導しており、就職活動にもつながっている。各種デザインコンテストに応募することで、クリエイション力の向上を図るとともに、評価を受けることで自信をつけさせる。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	須澤 麻紀
--------	-------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・修了認定基準は学則に定め、学生にも明確な基準を公表している。	学則 第 6 章 履修科目の単位認定に定め、適時確認できるよう Campus Guide & Diary に記載されている。 職業実践専門課程の申告に伴い授業計画（シラバス）の表記方法の見直しを行った。 大学の基準と合わせ「卒業認定の方針と該当授業科目の関連」の項目を増やし明確にした。	授業計画（シラバス）の表記方法が適切であるか確認が必要である。 大学の基準が変更になれば合わせて修正する。	ドレスメーカー学院学校関係者評価委員会規程 ドレスメーカー学院教育課程編成委員会規程 ドレスメーカー学院教育研修規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会資料 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会資料 教育課程編成委員会議事録 ドレスメーカー学院学則 授業計画（シラバス） Campus Guide & Diary
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	学内はもとより学外の発表成果においても教職員一同が把握できるような体制をとる。	担任が常に周知し、会議等で発表、校内での作品展示などにより報告する体制が整っている。	コンテスト等の作品成果において、ホームページの迅速な更新など外部に向けての対応が必要である。	学校案内パンフレット サブツール DMJ 会誌 教職員連絡会議

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>修得単位・成績通知書には、担任の所見を記入して保証人に通知をしているため十分周知はできている。</p> <p>成績評価においても本年度は、授業計画（シラバス）の表記方法をより明確にするための見直しを行った。</p> <p>作品の成果発表については、担任を通して学内および学外に向けても公表している。ホームページ等ネットワークを通して迅速な対応を行う。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	峯岸 恵
--------	-------------	-------	------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	資格取得を目的とした授業を行っている。	学科ごとに取得する資格検定試験を資格検定試験受験予定一覧表で明確にしている。検定試験対策を科目名として設定し明確にした。洋裁技術認定、ファッション色彩能力検定、ファッションビジネス能力検定、パターンメイキング技術検定、ファッション販売能力検定、フォーマルスペシャリスト検定準 2 級 (ブロンズライセンス) 等の検定を実施している。	現状のカリキュラム名の中で実施する。	ドレスメーカー学院学校関係者評価委員会規程 ドレスメーカー学院教育課程編成委員会規程 ドレスメーカー学院教育研修規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会資料 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会資料 教育課程編成委員会議事録 授業計画 (シラバス) 資格検定試験受験予定一覧表 各種受験要項 資格検定試験合格率一覧

3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	学科ごとに目標としている資格に対して 100%合格を目標に指導体制を整備する。	服飾に関わる検定対策は、服飾造形および立体構成の授業で取り組み、ビジネス関係の検定対策は、各担任の授業で行なっている。	今後も検定取得対策への充実を図る。	授業計画（シラバス） 資格検定試験合格率一覧
-------------------------	-----------------------------------------	-------------------------------------------------------------	-------------------	---------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>資格取得に対して早い時期から授業内で取り組み、指導体制は充実しており、成果は上がっている。</p> <p>今後は、さらなる合格率アップを目指し、環境を整えていきたい。</p>	<p>検定取得に対して、前向きな姿勢で取り組んでいる。特に基礎となる級（3級または初級）は、必修として取り組み、スキルアップにつなげている。</p> <p>本学園の校舎が多くの検定試験会場になっているため、学生にとって検定試験が身近なものとなっている。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	峯岸 恵
--------	-------------	-------	------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	学科ごとの教育目標に即したカリキュラム構成を行い、これを実施できる教員を確保することを目標にする。	専任教員は、教育目標に向けて毎年改善点を話し合い、カリキュラム構成を行なっている。また、クラス担任として、学生の生活指導とサポートを行っている。	専門性の鮮度を保つため、業界最前線のプロフェッショナルな方を非常勤講師や特別講師に迎えるなどして、維持していく。	ドレスメーカー学院学校関係者評価委員会規程 ドレスメーカー学院教育課程編成委員会規程 ドレスメーカー学院教育研修規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会資料 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会資料 教育課程編成委員会議事録 授業計画（シラバス） カリキュラム会議議事録
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員研修を行い、レベル向上を目指す。	サマーセミナーでの研究発表、ファッションビジネス学会での研究発表。その他研修会への参加、講演会の聴講。 科目ごとの授業評価アンケートの実施。	業界の現状を常に授業に生かしレベル向上を目指すため、教員研修への積極的な参加と研究発表を継続して行う必要がある。	授業評価アンケート サマーセミナーテキスト 教員研究一覧、教員研修会一覧、東京都服飾学校協会教員認定書

<p>3-12-3 教員の組織体制を整備しているか</p>	<p>院長を中心に学科長を置き組織体制は整っている。学科ごとに教育内容等を検討し、教育の質の向上を図る体制をとっている。</p>	<p>院長を中心に学科長会議で議案を検討し、主任会議で全体の方針を決定する。 教育内容についてはカリキュラム会議で検討し、教育課程編成委員会のアドバイスを受けて一年間の方針を決定する。 非常勤講師においては、年度末に講師会を実施している。</p>	<p>組織体制は整っているが、現状において専任教員は、多方面での兼務が多いため、連携を蜜にとることを常に心がけている。</p>	<p>ドレスメーカー学院学校関係者評価委員会規程 ドレスメーカー学院教育課程編成委員会規程 ドレスメーカー学院教育研修規程 自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価委員会資料 学校関係者評価委員会議事録 教育課程編成委員会資料 教育課程編成委員会議事録 ドレスメーカー学院学則 学校法人杉野学園管理運営規程 学科クラス編成表 会議一覧表 講師会資料</p>
-------------------------------	------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教員組織において、専任教員の専門性を高める研究会への参加および研究発表への取り組みはすでに実施されて充実した状況にある。また、教育目標に向けて毎年カリキュラムの見直し、改善点についての話し合いがもたれ、教員の目的意識の高さは評価できる。 さらに、専門性の鮮度を保つためには、常に情報を収集し、教員研修への参加、研究発表への取り組みを継続していく必要がある。</p>	<p>ファッション分野の特色として、ファッションショーやコンテストへの参加は必須となってくる。通常の授業に加え、実施されるケースが多く、このような事項についても専任教員は対処しなければならない。 また、学生募集の面でも職員と一丸となって協力することも多く、授業外での取り組みが増えている。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	峯岸 恵
--------	-------------	-------	------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>ファッション分野における職業教育に特化した教育内容で専門知識や技術を修業年限に修得し、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。</p> <p>各学科においては、目指す職種に基づいたカリキュラムを構成することでファッション分野へ就職する意識を高めている。さらに就職部と担任が連携し、学生個々の就職相談や指導を行うことで、平成 22 年度からの就職率は 96%を維持している。特に専門職への就職率は 42%を占めており、教職員の就職への意識の高さがうかがえる。近年の問題点としては、留学生の就職の難しさであり、この改善が急務であることは教職員の意識は一致している。</p> <p>各学科で、必要とされる検定試験の受験指導を充実させて合格率のアップを図っている。</p>	<p>企業から信頼される学校と評価を定着させるため、就職後も卒業生の相談に耳を傾け、企業に必要とされる人材に成長できるように見守る。この結果が次年度の内定につながる事となる。平成 27 年度は、就職率 100%となり、成果がうかがえる。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	須澤 麻紀
--------	-------------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<p>本学院は、服飾の専門学校であり 95%以上の学生がファッション産業への就職を希望している。早期の段階より自らの目標・職業観をより明確にさせるため『就職ガイダンス』などを通し、初年次より指導を行なっている。就職年次に対しては、学生との面談を強化し個々の希望職種で内定が得られるよう指導を行なっている。</p> <p>就職率については 100%を目標とし、毎年それに近い数字になっている。学生の就職状況は、月毎に集計し、結果を教員側と就職部が共有して連携を図っている。</p>	<p>初年次に実施する『就職ガイダンス』では、ファッション業界や就職活動に関する知識を学ぶ全 11 回の講座であり、アパレル企業人事担当者等を招いて講座を開催している。</p> <p>就職年次には、『個別面談』の実施を徹底して行なっている。</p> <p>卒業年次の学生は、『進路調査カード』の記入を必須としている。就職部では、提出されたカードをもとに学生の希望職種を把握しながら的確に就職先の斡旋を行なっている。また、学内において個別企業説明会を年間 30 回以上実施し、学生に応募の機会を与えている。</p>	<p>教職員が密に連携をし、学生への就職支援を行なった結果、就職率が 100%になった。</p> <p>平成 27 年、平成 28 年と 2 年続けて目標の 100%となり、今後も 100%を目指し、支援の強化を図る必要がある。</p>	就職ガイダンス年間予定表 就職活動の手引き

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職部が主体となり、就職の具体的な活動に関するセミナー等の指導を『就職ガイダンス』として年間 11 回実施している。</p> <p>本学院は、担任制のため就職部と連携を取り、学生の情報交換を行っている。</p>	就職対策テスト(職務適性テスト、一般常識テスト)、面接対策講座、履歴書対策講座 等を実施している。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	中田 二三正
--------	-------------	-------	--------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	合格率 100%を目標にして、指導にあたる。	洋裁技術検定・ファッションビジネス能力検定・パターンメイキング技能検定・ファッション販売能力検定・ファッション色彩能力検定・フォーマルスペシャリスト検定等	検定取得の授業計画をより一層充実させ、きめ細かい指導に努力する	授業計画書 資格検定試験合格率一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得に関する取り組みは、充実していると思われる。また、目標の合格率は 3 級・初級に関してはほぼ達成されている。資格取得者とその推移に関しては、各クラス担任と教務課の連携で現状のデータは正確に把握され、次年度の資格取得を支援する活動の資料として有効に活用されている。	学校全体で資格取得に取り組んでいる。 各種検定の会場校となっている。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	木村 千晶
--------	-------------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生はアパレル業界を中心にいろいろな分野に就職、活躍している。 特別講義や各種イベントに協力を依頼、また学校としても卒業生の展示会を訪ねるなど、応援していく。	卒業生に向けて、メール登録を促して学校のイベント情報などを一斉送信している。さらに、Facebook を利用して、日頃より情報交換をしている。また、特別講義、イベントへの協力など依頼している。 卒業生に対する企業へのアンケート調査は実施していない。	アパレル業界は転職が多いので、卒業生の動向を追いかけるのが難しい。SNS を利用しながら輪を広げていく。 また、特別講義も各科で回数を増やし、他科とシェアするなど工夫する。 教員一人ひとりが卒業生とまめに連絡を取っていくことも大切である。 卒業生に対して、学校側としてもバックアップや交流会等を増やしていきたい。 企業へのアンケート調査の実施について検討する。	DMJ 会誌 入学案内パンフレット 学校ホームページ サイト『FASHION PLUS』 年間特別講義一覧 ファッションカ など

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ドレスメーカー学院の基礎教育が礎になり、卒業生は各分野で成長している。それぞれの分野で活躍する卒業生をなるべく把握し、情報交換ができるような態勢を作っていくよう努力している。	2013 年度に直近の卒業生 400 名を調査してから、毎年少しずつ調査を重ねている。メール登録を促しているが現在のところ、約 100 名が登録している。一方、DMJ 会誌や各種雑誌・新聞広告、ドレスメーカー学院公認サイト『FASHION PLUS』などの取材を通して卒業生の動向・活躍ぶりを確認している。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	木村 千晶
--------	-------------	-------	-------

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が有意義な学生生活を送るためには、入学から卒業までを通して学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要である。</p> <p>就職・進学指導に関する体制は、就職部が主導のもと教員との連携で就職支援を行っている。就職ガイダンス、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、学内企業説明会の開催、キャリアカウンセラーを配置し卒業年度生全員の個別相談を行っている。その結果、就職率のアップに繋がっている。</p> <p>専任のカウンセラーを置いた学生相談室は、早くから開設しており、担任、学生部、医務室の連携のもと迅速に学生の悩みの相談に応じている。しかし、直接相談できない、あるいは帰宅後体調不良で相談したい学生の対応のため、平成 26 年 4 月より 24 時間健康相談や医療機関の情報などを電話相談が無料で受けられる「杉野学園ヘルスサポートセンター」を設けた。このシステムは、保護者も利用できる。</p> <p>留学生の支援は、学生部に留学生担当を置き、学生生活上の悩みに対応している。留学生との面談などを行い留学生の要望に沿ったきめ細かい支援に努めている。</p> <p>学生の健康管理体制は、看護師常駐の医務室を開設し、毎年、春には全学生対象に定期健康診断を実施、診断結果によっては、医務室において個別指導を行っている。また、上記にも記したが 24 時間電話で健康相談が受けられるシステムを導入している。</p> <p>学生の経済的支援は、奨学金を必要としている学生が申込の機会を逃すことのないように、奨学金貸与希望者説明会を実施している。また、担任を通して新しい情報をその都度周知している。また、本学独自の奨学金制度や学費クレジットを導入し、学業を継続しやすいようにしている。今後も毎年見直し、社会情勢にあった支援を検討していきたい。</p> <p>課外活動については、学園祭、卒業制作発表会等を課外活動と位置付けて、各クラスの有志からなる実行委員が企画・運営をしている。また、ボランティア活動として地域のイベントなどに積極的に参加させている。</p> <p>遠隔地出身者のための学生寮を有している。また、入寮できなかった学生には、民間の学生会館や不動産会社と提携したアパート・マンションを安価で紹介している。</p> <p>入寮した学生には、館内規則やルールのパンフレットを配布し指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 短期大学部・大学が併設されているため、就職部、教務部、学生部は学園として存在し、全ての学生を管轄している。そのため、課外活動などには流動的に対応している。 * 精神的あるいは身体的悩みを抱えている学生対応のために、24 時間対応できる電話健康相談システム「杉野学園ヘルスサポートセンター」を設けている。 * 経済的支援としては、入学時から経済的負担を軽減させるために、平成 27 年度より新入生対象の「杉野学園新入生奨学金」「同窓生特別免除制度」「全国ファッションデザインコンテスト奨励金」制度を新設、その他従来からある「杉野学園奨学金」の採用枠を増やすなど本学独自の奨学金制度の充実を図っている。平成 29 年度からは、突然の家計急変による授業料未納者対応のために、新たに授業料減免制度を設けることとした。 * 本学院の学生寮には、管理人が常駐し、学生の生活面の指導、支援を行っている。また、学生が作品制作できるように作業室を設け、洋裁台・ミシン・ボディなどを設置しハード面においても支援している。

最終更新日付

2017年 6月20日

記載責任者

柴田 弘子

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	本学院は、服飾の専門学校であり、多くの学生がファッション産業への就職を希望している。就職部には、アパレル企業経験者、社会教育主事の資格を持った専門の職員が配置され、学生の進路指導にあたっている。多くの学生が希望の職種で内定を得ることができるよう支援を行っている。	就職ガイダンスの実施。 週 2 日キャリアカウンセラーを招聘し、個別面談を予約制で行なっている。	今後、外国人留学生が増加傾向にあるため、教員と就職部との連携を密に取り合う必要がある。	就職活動の手引き 就職ガイダンス年間予定表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職部が主体となり、就職ガイダンス、就職対策講座、就職対策テスト、合同企業説明会の実施をしている。 本学院は、担任制のため就職部と連携を取り、双方で学生に対してきめ細やかな指導を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンス年間予定表 ・就職ガイダンス ・就職対策講座 ・就職対策テスト ・合同企業説明会

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	中田 二三正
--------	-------------	-------	--------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<p>入学者数が年々減少してきているため、きめ細かい指導が必要である。中途退学者を出さずに、入学者全員の卒業を目標としている。</p> <p>中途退学率 0%を目標とし、退学事由の分析を行い、要因に応じた対応を強化する。</p>	<p>平成 28 年度の退学率 10.7%。主な退学理由は専攻分野不適応 4.2%、専攻分野理解不足 0.5%、進路再検討 3.7%、健康上の問題 0.9%、学業遅滞 0.5% である。担任制を取っているため、出席、遅刻、課題遅滞等の状況を学生本人のみでなく、保護者にも蜜に連絡を入れて、早期解決に努めている。</p> <p>メンタル面においても、法人内の共通カウンセラーによる個人面談を実施している。</p> <p>学力的に授業についていけない学生に対しては、補講などのサポートをしている。</p>	<p>多様化している学生の目的意識の低さ、また、経済的理由からアルバイト等のオーバーワークで欠席・遅刻をし、学業を遅滞して退学に繋がる学生が多い。</p> <p>保護者が子どもに無関心なケースが多く、この解決策の検討が必要である。</p> <p>学力的に授業についていけない学生に対する補講等の強化も必要である。</p>	<p>年度別退学・除籍者の推移学籍簿</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 28 年度の退学率は 10.7% である。平成 27 年度の退学率は 7.1% であり昨年よりは増加の傾向にある。</p> <p>欠席、遅刻、作品遅滞等の多い学生は、本人への注意と保護者への連絡も行っている。</p> <p>退学防止には、早期対応が必要であり、中途退学率の低減に向けた一層の努力が必要である。</p>	

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	入学する学生の多様化に伴い、不登校、引きこもり、対人関係など学生が学業を全うする過程で抱える、さまざまな悩みや困難に対応するためには、学生相談体制を整えることは最も重要であると考えている。	専門のカウンセラーが相談にあたっている。また、相談室前、学生部前にBOXを設け、直接対面しなくてもメールや電話などでも気軽に相談できるような方策をとっている。 また、クラス担任との連携により決め細かい対応を心がけている。その他、24時間健康相談に応じる電話健康相談システム「杉野学園サポートセンター」を導入。保護者、教職員も利用でき、医療機関などの紹介もできる体制を整えている。	現状では、ある程度整備されていると考えている。	Campus Guide & Diary 学生相談室利用状況報告 学生相談室情報
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	母国を離れて不安を抱えながら留学生生活をしている留学生に対し、充実した受け入れ体制と支援体制を整備することは、学校としての責務であると認識している。	現在 13 名の留学生が在籍している。学生部に留学生担当を設け、状況に応じて、担任、教務課、就職課、医務室、相談室などと連携しながら対応している。留学生のためのオリエンテーションを実施し、奨学金の他、アルバイト等入管への手続きについての説明会を実施している。就職については、留学生用の求人コーナーを設けて対応している。 また、専任ではないが語学ができる職員を配置している。	留学生の現状を把握するように努力している。 日本語の能力不足により、授業についていけない学生などについても、教員、学生部などと連携しながら学業が全うできるように対応している。	Campus Guide & Diary 留学生に対する援助制度

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の多様化が進み、入学から卒業にいたるサイクルの中で、学生は「学業」「進路」「学生生活」「対人関係」などそれぞれの場面で様々な支援を必要としている学生が増えている。専門的なカウンセラーによる相談体制を強化すると同時に日々の教育など教職員による学生支援、医務室などと連携した総合的な学生支援が必要である。</p>	<p>メール、電話でもできる学生相談室の設置 24時間電話で健康相談ができて保護者も利用できる「杉野学園サポートセンター」の開設</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学生募集や社会の経済状況等を鑑み、経済的側面の支援体制の整備に努めることを目標にしている。	経済的支援を必要としている学生のために、平成27年度より新規に新生奨学金制度・全国ファッションコンテスト奨励金・同窓生特別免除制度を設け、さらに従来の杉野学園奨学金制度の充実を図った。 また、奨学金の申込の機会を逃すことがないように説明会を実施している。その他、担任を通して新しい情報をその都度周知している。 留学生に対する授業料の減免を実施している。	日本学生支援機構の奨学金には、返還が伴うということの認識不足から卒業後に返還せず延滞率が全国平均より高くなっている。奨学生の現状を把握すると共に、学生自身が奨学生であるという意識を持たせると同時に、学業への意欲、登校を促し返還義務の意識を高めるため、毎月学生部に来室させ在籍確認を実施している。また、返還説明会も強化する。	Campus Guide & Diary 杉野学園奨学金規程 杉野学園新生奨学金規程 奨学金説明会資料 生徒の事故・被災等に関する措置（内規） ドレスメーカー学院私費外国人留学生授業料減免に関する規程
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生が健康的な環境で学業ができるように教職員や医療機関との連携を強化し、学生の健康管理に努めことを目指している。	看護師及びカウンセラー常駐の医務室・学生相談室の設置。 24時間健康相談に応じる電話健康相談システム「杉野学園サポートセンター」を導入。年1度定期健康診断を実施。そのほか季節ごとの医務室便りを発行して学生の健康管理に努めている。	学生の健康管理には、教職員連携の下、十分対応していると思っている。	Campus Guide & Diary 定期健康診断実施要項 定期健康診断受診者報告書 医務室便り
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	遠距離からの学生の経済的負担の軽減と同時に学生及び保護者が安心して学業に専念できるような環境を提供することを目的としている。	学生会館夕陽ヶ丘を設置している 学生会館の消毒、畳替え等環境の整備。防災訓練の実施、学期ごとのオリエンテーションの実施。 民間の学生会館や不動産会社と提携して安価な物件の紹介をしている。	学生会館の築年数が古い、その都度手入れをして、学生が快適に暮らせるようにしている。	学生会館のパンフレット 入館要項・館内規則 入館についてのご案内 学生寮生活ルール お部屋探しの簡単マニュアル。

5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生生活の充実のためには、授業以外の課外活動は、重要と考え、学生の自主的活動を奨励している。	フォトサークル・メンズサークルがあるが、併設の大学のクラブにも加入できる。また学園祭、卒業制作発表会の実行委員会は、全員参加の行事ではあるが課外活動として学生生活を充実させている。	特になし	ドレメ祭り委員会報告 パンフレット DM(ドレメ祭り・卒業制作発表) 学友会報告 セレクション委員会報告
-----------------------------	------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	------	------------------------------------------------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の経済的支援を充実させるために、本学独自の奨学金制度を設けている。また、留学生の経済的支援として私費外国人留学生学費減免制度も導入している。</p> <p>健康管理のための体制を整備している。学生会館の設置や民間の安価な物件の紹介も行っている。</p> <p>課外活動の支援体制も整備している。</p>	<p>私費外国人留学生の授業料を30%減免している。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	平成 22 年度から保護者会を開催し、学生生活、就職関連等の情報提供をしている。 学業成績不振、出席不良者の保護者に対しては、必要に応じて電話連絡や面談等の実施を行うことを方針としている。	平成 28 年度は 1 年生対象に入学時と 11 月、2 年生は、11 月に保護者会を実施した。 前期・後期の履修単位・成績通知書に担任の所見を記入して保護者に送付している。 特に遅刻、欠席の多い学生、メンタル面等の問題解決にあたり、保護者と電話連絡や必要に応じて面談を行っている。	入学時の保護者数 68 組、11 月は、1 年生保護者数 15 名、2 年生保護者数 7 名、全体で 22 名となり、昨年度よりは、参加者が若干増えたが、今後も参加者増加対策が必要と思われる。 保護者に対して、学校生活、情報等をきめ細かく伝える活動を検討する必要もある。	保護者会開催通知書 履修単位・成績通知書控え

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者会は、1・2 年生を対象に年間 2 回開催し、学生の学校での生活や家庭での生活状況などの情報交換等を行っている。 特に学業等のことで問題のある学生の保護者には、電話連絡や必要に応じて担任との面談を実施している。	特になし

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	相場 千枝
--------	-------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<p>系列校・同窓会組織「DMJ 芳和会」を整備している。</p> <p>教員のネットワークにより、同窓会を毎年開催し、卒業生との情報交流をすることで、支援体制を強化する。</p>	<p>「柳原操奨学金」により、将来が有望と思われる卒業生に支援をしている。本年度は 2 名が対象となった。</p> <p>卒業生から要望のある、学生による作品制作の手伝いは個別に教員が対応している。</p> <p>卒業後のキャリアアップの部門はないが、就職課が在校生と同様に卒業生の転職、再就職支援を行っている。</p>	<p>教員のネットワークで毎年同窓会を開催しているが、「DMJ 芳和会」として取り組んでいないため、同窓会組織を充実させて、卒業生のネットワークと支援体制を強化していく。</p>	<p>ホームページ</p> <p>「DMJ 芳和会」の会則</p> <p>Facebook</p> <p>ファッションプラス</p> <p>既卒者用求職表</p>
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<p>卒業後のキャリア形成支援等に取り組むことは重要であり、卒業生及び社会人の学びに対する支援となり意義のあることと考える。</p>	<p>関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等には行っていない。</p>	<p>卒業後の再教育プログラムの開発に対し、今後検討していきたい。</p> <p>具体的には「ファッションビジネス学会東日本支部」の活動や講演会の活動と連携を模索していきたい。</p>	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<p>社会人や就労学生に対しては、学生の状況に沿った就学支援、学修支援が必要と考える。</p>	<p>本学院に社会人学生の入学は、ごく希であるが、社会人経験者（既卒者）や社会人学生の対応に関しては今後の課題である。</p>	<p>入学した社会人経験者（既卒者）に対してアンケートを実施し、意見を参考にして検討する必要がある。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の支援体制は、学生による作品制作の手伝いや再就職支援など、要望があれば個別に行っているものの、学校側からの再教育プログラムなど組織としては行っていないため、今後、同窓会組織「DMJ 芳和会」の中で充実を図ると共に、組織としても展望を考える必要がある。</p>	<p>卒業生の活躍は「D.M.J 会誌」「ファッションプラス」に掲載</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備は、教育の必要性に応じて随時検討し、整備しており、メンテナンスの機能も充実したものとなっている。</p> <p>学外実習・インターンシップ・海外研修等については、各学科の特色を出し、学科ごとに行っており、充実した内容で高い成果を上げている。</p> <p>防災に対する体制としては、災害対策本部制を設け、災害に対する訓練を職員、教員及び学生を含めた訓練を行っている。</p> <p>防災体制の充実と保険等も整備され、もしもの時の備えは万全ではないかと思われる。</p>	<p>CG及びCADのパソコンは、授業において1人1台揃っている。</p> <p>ミシン、その他の造形作業道具類が充実している。</p> <p>清掃が行き届いておりクリーンな教育環境になっている。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	充実した施設・設備による、レベルの高い教育内容を目指す。	施設・実習設備は毎年調査を行い調査結果により検討し設備を導入している。 衛生面では、各フロアに手洗い所を設けている。 杉野学園としての図書館があり、学生が自由に利用でき、内容もファッション関連はもとより、幅広い内容であり、充実している。 衣裳博物館を設置している。	IT化に伴い、スマートフォンを使った授業を実施しているため、無線でネットワークに接続できるWIFI環境の整備が必要と思われる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年施設・設備の調査を行い、予算とリンクして随時整備を行っている。 設備に関しては、最新の設備を導入しており、教育内容も進化し、レベルアップしている。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<p>企業での現場実習を積極的に行い、連携を密にしながら教育を行う。</p> <p>海外研修では、学生の見識を高める為、研修内容の検討を毎回行い充実した内容で実施できるように努力している。</p> <p>就職率 100%を目指している。</p> <p>学生に対し就職ガイダンス、求人速報を随時告知し、就職意識の向上を図ることを目標としている。</p>	<p>ニューヨーク研修旅行は、平成 27 年度よりファッション工科大学での研修を実施。(修了書を授与、1 単位を取得できる)</p> <p>高度アパレル専門科 4 年のパリ・オートクチュールコレクション視察旅行の実施。</p> <p>学科ごとのインターンシップの実施。</p> <p>就職ガイダンスの実施。</p> <p>求人速報を随時掲示。</p>	<p>インターンシップに関しては、さらなる選択企業の拡大及び企業との連携を密にし、内容の充実を図る。</p>	<p>ニューヨーク研修旅行パンフレット</p> <p>パリオートクチュールコレクションパンフレット</p> <p>インターンシップ覚書</p> <p>企業研修考課表</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>海外研修に関しては充実した内容を検討しているため、学生の意識向上及びレベルアップに大きな効果がでている。</p> <p>インターンシップは、企業との事前の話し合いを行い、内容の充実を図っており、企業数も増やしている。</p>	<p>ニューヨーク研修旅行は、学園全体の学生に告知し、学年・学科関係なく希望者を募り、研修を行っている。</p> <p>インターンシップは、各学科の特色を踏まえ、協力企業へのアプローチを行っている。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	昨今の自然災害などに鑑み、学生、教職員の安全を図るためには、学内における危機管理、防災体制は常に整えておくことが必要と考えている。	平成 18 年 12 月に防災規程を制定し、震災対策本部の組織図により体制は整備されている。毎年、防災訓練を実施することで防災、危機意識を高めるよう努力している。 また、携行用の大地震対応マニュアルを作成し、学生、教職員に配布している。	毎年、1 年生対象の防災訓練を実施しているが、今後は、全学生、教職員の防災訓練の実施を検討する。	杉野学園防災規程 地震発生時の対策マニュアル 大地震対応マニュアル
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	学生の安全を守ることは最重要であると同時に教職員の安全も重要である。そのための施策は図っている。	学内での事故等の対応のため、学生全員が学校負担で保険に加入している。また、校舎の耐震工事をを行い安全管理体制の整備に努めている。		Campus Guide & Diary 学生・生徒災害傷害保険加入証

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成 27 年 5 月現状に即した消防計画書を作成、防火管理委員会も開催し、11 月 20 日には自衛消防・防災訓練を実施した。 防災・安全管理に対する対策は、十分に講じられている。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の募集と受け入れは、学校経営の根幹であると考えている。そのため、入り口から、在学中の教育内容、学生支援、出口である就職支援までの全過程が学生募集の一環と捉え、教員はじめ、各部署、すべての教職員の連携が必要である。</p> <p>高等学校への情報提供に関しては、入試広報部の高校訪問担当者が中心となって東京、神奈川、千葉、茨木、埼玉、群馬、栃木の高校を重点に訪問している。</p> <p>また、教員による高校訪問も強化。そのほか全国の高等学校の情報が掲載されている AOL システムを導入して、高校情報を把握、また訪問報告書も教職員が共有するようにしている。</p> <p>その他、高校生に直接接することができ、本学の教育内容を理解してもらうため、出張授業や校内ガイダンスに力を入れている。</p> <p>ホームページのリニューアル、学校案内、DM、新聞雑誌広告の見直しなども行うと同時にリクルートの提案による学校のイメージをタグライン化「いい服には法則がある」として広く周知することとした。</p> <p>入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。入学後の学生に対し、授業評価アンケートを実施し、授業改善を図っている。</p> <p>学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、検討を行い、見直し、適切な算定を行っている。</p> <p>近年、入学者数は年々減少していたが、平成 28 年度入学者数は昨年と比べ若干増加した。定員充足のために教育の内容の充実、オープンキャンパスの工夫に一層努力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 会場ガイダンスから校内ガイダンスへのシフト * 高校訪問の強化 * 出張授業の強化 * オープンキャンパス、体験入学の工夫（個別相談への誘導の強化）

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	高等学校等に情報を提供、連携することは、学生募集するうえで最も重要なことと考えている。	AOL システムを導入して、高校の情報を適切に把握し、教職員の高校訪問の情報を共有、常に情報発信している。特に、高校内で実施するガイダンスには、積極的に参加して情報を提供している。また、出張授業を実施し連携している。在学生情報も常に提供している。	大学・短大と併設しているため、その違いを問われることが多い。高校教員に3校の違いをわかりやすく示すパンフレットの作成を検討する。	AOL システム 体験・学校説明会開催 DM 学校案内 卒業生情報 在学生情報
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	学生募集実行委員会を組織し、データに基づいた年間計画を立て、実施することが必要と考えている。	ホームページのリニューアル。学校案内、DM、新聞、雑誌広告その他交通広告等の見直し、教員による高校訪問の強化。校内ガイダンスへの参加強化。出張授業の強化。体験、学校説明会の内容の工夫。個別相談の強化。願書の受付は、規則に従って適切な時期に行っている。	個別相談を強化し、志願者からの質問などには、学びの内容が解るように時間をかけて丁寧に対応している。	学校案内 募集要項 体験・学校説明会開催 DM 卒業生情報 在学生情報

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入試広報部の高校訪問担当者が中心となって東京、神奈川、千葉、茨木、埼玉、群馬、栃木の高校を重点に訪問している。そのため、各高校との連携は密になっている。また、DM など工夫し情報提供を行っている。リクルートの提案によるタグライン「いい服には法則がある」の設定。タグラインに沿ったぶれない学生募集を実施。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	多様な入学試験を導入し、入学試験要項に入学試験ごとの選考基準を明記し、それに従い選考委員が決定する。	面接試験の場合は、複数の面接官により判定後、選考基準に則って面接官、選考委員が判定する。		入学試験要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	学生の意見を反映して授業改善を図ることは入学者確保の上でも重要と考える。		具体的な取り組みに至っていないため、今後の課題である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	社会の経済状況或は、他校の状況などに鑑み、毎年見直し、適切な算定を行っている。	入学試験要項作成時には、毎年見直しを行っている。決定は理事会で行う。	ここ数年、改定していない。今後、消費税の引き上げに伴い学納金をどのように設定するか検討する必要がある。	入学試験一覧内の納付金一覧
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	社会的なルールにのっとり適切な対応をすることは、必要と考え、方針を定めている。	入学試験要項に返金内容を明記して志願者に周知、適正な取り扱いを行っている。辞退届により適切に処理している。	特になし	入学辞退届

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金については、明確に公表している。 ここ数年改定していないため、消費税引き上げなどに鑑みて検討する必要がある。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人杉野学園の事業活動収支について平成 24 年度、平成 25 年度は、収入超過であったが、平成 26 年度、平成 27 年度は支出超過となった。これは、本学の収入の大部分を占める学納金の減少によるところが大きい。</p> <p>貸借対照表について、平成 27 年度の純資産構成比率は 72.6%である。この比率は、高いほど財政的に安定しており、50%を割ると他人資金が自己資金を上回っているとされている。本学は、50%を超えているものの私学全体の平均値にまでは及ばない状況にある。学園全体の財務状況は、日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」において「B0」と区分されている。</p> <p>平成 28 年 3 月に杉野学園中長期計画を策定した。ドレスメーカー学院では、この中長期計画に沿って平成 32 年度までに入学定員を確保し、ドレスメーカー学院自身での収支均衡を図る。</p>	<p>赤字の原因については、高い人件費依存率が考えられる。これは、人件費が高いというわけではなく学生数が減少しているにもかかわらず、実習系の専修学校やクラス編成の理由で教員・職員を減らせていないことが原因である。授業内容の改善向上を進め、学生募集活動をより強化し、入学者の増加を図ることによって、事業活動収支を改善することが急務である。</p>

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	菊池 俊昭
--------	-------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	平成28年3月策定の中長期計画に沿った収支を達成し、平成30年度には、資金収支で黒字化を目標としている。	財務基盤を安定させるためには、学生の確保が必要である。中長期計画に沿った学生の獲得に努力をする。	平成28年度入学者が増加したが、平成29年度は平成27年度並みに戻ってしまった。原因分析を行いさらなる学生の確保に努める。	杉野学園中長期計画 私学活性化分析資料(日本私立学校振興・共済事業団)
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	主要な財務数値に関する財務分析を行っている。	日本私立学校振興・共済事業団がHPで公開している「自己診断チェックリスト」を利用して経年変化や全国平均との比較分析を行っている。	高い人件費依存率が財務を逼迫させている。学生確保に努めるとともに、教員組織、職員組織の改革にも着手する。	自己診断チェックリスト(大学・短大編)平成27年度版

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
入学者の減少が財務基盤を揺るがしている。学生の確保に努めながら、学校の規模に合った人員の配置、整理を行っていく必要がある。教育研究経費は、事業活動収入の40%を超えており、財務が厳しい中ではあるが教育研究への経費の配分は十分といえる。	平成27年度に第五校舎、夕陽ヶ丘寮に係る借入金の返済が終了しドレスメーカー学院の借入金は無くなった。 ドレスメーカー学院の事業活動収支差額は、10年以上にわたり支出超過が継続している。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	菊池 俊昭
--------	-------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	予算編成は、12月の理事会で決定された予算編成方針に従い、関係部署が予算要求を行う積み上げ方式をとっている。	予算要求書には、目的、内容、計画及び成果を記入するようになっており、教育目標、中期計画、事業計画等との整合性を図っている。	内容、計画等と予算の整合性がとれない予算要求書も見られる。具体的な内容、計画等を記入し予算との整合性がとれるよう努める。	経理規程 予算要求書 平成28年度予算編成方針
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3月の理事会において決定された予算書に基づき関係部署へ予算が配付される。関係部署は、配付された予算内での予算執行を行う。	予算の執行については、経理規程第54条に基づき予算単位責任者が支払内容について確認をしている。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
積み上げ方式の予算編成を行って10年以上経過し予算編成から予算配付、及び予算執行と予算制度が十分浸透してきている。しかし、中には計画と予算の整合性がとれないものも見受けられる。予算編成の段階でしっかりと計画を立て計画通りの予算執行が行えるよう努める。	ドレスメーカー学院は平成29年度予算編成の時点で8千万円の赤字を計上している。

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	菊池 俊昭
--------	-------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	適切に監査を実施している。	監事は、寄附行為第15条に基づき業務監査を行っている。監査法人との連携もとれており、会計年度2月以内に監査報告書の提出をしている。	特になし	監査報告書（ホームページ）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>監事は、監査計画に基づき毎月関係部署の業務監査を行っている。</p> <p>会計面については、四半期ごとに試算表等を確認している。</p> <p>監査法人の監査時には、同席することもあり、監査法人との連携も密にとれている。</p> <p>監査法人による監査は継続して行われ、近年指摘事項は受けていない。</p>	特になし

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	菊池 俊昭
--------	-------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	財務情報公開体制を整備し、適切に運用している。	規程を整備するとともに学園広報誌、ホームページで公開している。	特になし	学校法人杉野学園財務情報の公開に関する規程 本学ホームページ DMJ 会誌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育情報の公表及び財務情報の公開について、学校教育法施行規則、私立学校法の規定に基づき、学園広報誌、ホームページにて公表している。	特になし

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	菊池 俊昭
--------	-------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。</p> <p>また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、主任会議、職員全体会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。</p> <p>本学院では、平成 17 年 4 月 1 日の個人情報の保護に関する法律の前面施行に伴い、その保護のための対策として「個人情報の保護に関する規程」を定めた。</p> <p>個人情報の重要性を認識し適切に取り扱うための研修やミーティングを教職員対象に実施し、法令に則り各部署定められた対策をとっている。しかし、スマートフォンや SNS の急激な普及により漏洩につながる事件事故が多くなっている。</p> <p>今後は一層、個人情報の保護・管理には厳重にあたり、漏洩がないように教職員はもとより学生に対しても啓蒙活動を実施し、意識向上を図る。</p> <p>社会規範に係る法令の遵守や学内諸規則の遵守については、全体会議や主任会議等において、理事長、院長から機会あるごとに注意を喚起し、リーガルマインドの浸透に努めている。</p>	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	設置基準に則り、法令を遵守することは当然と考える。	学園としての管理運営に関する諸規程を定め、それに則って適正な学校運営を行っている。	特になし	学校法人杉野学園規程集 ドレスメーカー学院学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報の重要性を認識し、適切に取扱う方針を定めている。	個人情報保護法に則った規程を定め実行している。 また、漏洩や紛失などの事故が発生しないように、情報システム課が十分なセキュリティ対策を講じている。 オリエンテーションにおいて、学生への意識啓蒙を図っている。 平成28年1月に「学校法人杉野学園情報セキュリティポリシー」を定めて、情報保護の対策を強化した。	多機能で便利なスマートフォンの普及により、便利な反面、ウイルスに感染したり個人情報が流出するなど危険も多いため、情報収集や情報発信を適法・適切に行うためのマナー教育を強化する。	学校法人杉野学園個人情報の保護に関する規程 学校法人杉野学園情報セキュリティポリシー

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	自己評価は私立専門学校等評価機構の定めた基準項目に従って実施することを方針としている。	実施体制は、院長を委員長に「自己点検・評価委員会」を平成18年に設置し、定期的に委員会を開いて、実施してきた。自己評価を行うことで教育活動全般についての課題の発見・改善に努めている。	諸事情があり実施できない年度もあったが、平成27年度より毎年実施している。	自己点検・自己評価報告書 ・平成19年度、 ・平成20年度、 ・平成21年度、 ・平成22年度 自己評価報告書 ・平成27年度 授業評価アンケート 本校ホームページ
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	平成19年度から自己点検・自己評価を行ってきたが、特に結果の公表は行っていなかった。平成27年度より公表する方針とした。	これまでのものは、冊子等にまとめて、誰でも閲覧できるようになっている。 平成27年度よりホームページで公表している。	特になし	自己点検・自己評価報告書 ・平成19年度、 ・平成20年度、 ・平成21年度、 ・平成22年度 自己評価報告書 ・平成27年度 本校ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	文部科学省ガイドラインに従って実施体制を整備し評価を行っている。	平成27年度より、学校関係者評価委員会を開催している。	特になし	「学校関係者評価委員会」議事録 本校ホームページ
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	「学校関係者評価委員会」の報告書にまとめ、公表する。	評価結果をホームページで公表している。	特になし	「学校関係者評価委員会」議事録 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 27 年度より自己点検・評価委員会の実施体制を整備し評価を行い、公表をした。また、学校関係者評価委員会の実施体制も整備し、評価結果も公表している。</p>	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学校の概要、教育内容については学校案内の他、ホームページ、Facebookに掲載して公表することを方針としている。	卒業制作発表会、コンテスト、産学連携など、学生の活躍や教育成果をホームページやFacebookで即時紹介し、D.M.J会誌を通じて記録として残している。 また、業界紙・誌で取り上げられるよう、産学連携の取り組みは、プレスリリースを作成し、担当記者に随時知らせしている。 本年度より「教育課程編成委員会」を設置して、議事録を公表している。	産学の取り組みを関連業界にアピールできるよう、プレスリリースをさらに充実させていきたい。	学校案内 本校ホームページ D.M.J会誌 Facebook プレスリリース 業界紙・誌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育内容、特に産学連携に関しては、順次 Facebook、ホームページで紹介し、公開に努めてきた。本年度は高度アパレル専門科において、3月14日に教育成果の記者発表を行った。プレスリリースを作成し、業界紙・誌で取り上げられるよう、担当記者に随時知らせしており、教育情報の公開は進んでいる。	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	布矢 千春
--------	-------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域貢献、社会貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉えて推進している。</p> <p>品川区、目黒区の様々なイベントに積極的に参加している。</p> <p>また、地域の小学生を対象にドレメキッズスクールを開催して、本学院の特色である服飾のものづくりの楽しさを知ってもらう企画を実施している。</p> <p>学園祭（ドレメ祭り）では、地域の子供会と連携して「こどもハロウィンコレクション」を企画、子供たちがファッションショーに参加して交流を深めている。</p> <p>ドレメサマーセミナーでは、本学院の教員が研究発表を行い、高等学校の教員や服飾教育に携わる指導者などの研修の場として公開している。</p> <p>高等学校に本学院の教員を派遣し出張授業を実施して高専連携を図っている。</p> <p>また、本学園が主催する「全国ファッションデザインコンテスト（一般の部）（高校生の部）」は、本年度 54 回を迎え、学内の施設で国内外から応募された作品の中から優秀作品をショー形式で発表。高校生の部は、展示で発表して広く公開している。</p>	

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	地域交流、社会貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉え推進している。	品川区、目黒区のようなイベントに参加すると同時に、ドレメキッズスクールを開催して、本学院の特色である服飾のものづくりの楽しさを知ってもらう企画を実施している。 全国ファッションデザインコンテストを開催。国内外からの応募の中から優秀作品を学内でショー形式の発表を行ない広く公開している。 地域貢献の一環として、本学の体育館を地域企業のクラブに解放している。	特になし	ドレメジャーナル 学校案内 杉野学園この10年(90周年記念誌)
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	国際的な感覚を身につけるためには、海外研修の実施や海外の学校との交流が大切と考え積極的に取り組んでいる。 また、留学生受け入れのための情報発信を行っている。	中国、ロシアの大学と交流協定を締結、相互訪問を行い学生交流や特別授業なども行っている。 また、海外研修を企画、学生の参加を促している。 留学生受け入れのため、留学生対象のガイダンスなどに参加し留学生確保に取り組んでいる。	海外研修を企画しているが、経済的な事情か或いは、学生の気質が内向きなのか、参加者が少ない。 研修内容や費用、説明会の方法などについて検討する必要がある。	国際交流協定書 海外研修募集要項 ドレメジャーナル

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	教育の場として、学生に地域社会や社会情勢に関心を持たせ、身近なことから社会に貢献できる人材を養成することは、必要と考えて積極的に取り組む方針でいる。	エコキャップ運動 使用済みインクカートリッジ回収運動 品川区エコフェスティバル参加 品川区、目黒区のイベントへの参加	本学園では、身近でできる活動を実施しているため、学校の方針や規程など定めていない。今後は学生のボランティア活動など社会活動を推進するための規程の整備、表彰制度などを設けることを検討する。	杉野学園この10年(90周年記念誌)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)

最終更新日付	2017年 6月20日	記載責任者	柴田 弘子
--------	-------------	-------	-------